

バングラデシュと手をつなぐ会

≡ロン

NO. 86

MAY 2001

≡ロンとは、「一つになる」「手をつなぐ」という意味のベンガル語です。

アジアの子どもたちの未来のために

Bangladesh と手をつなぐ会へ
あなたも参加してみませんか

「Bangladesh と手をつなぐ会」では、Bangladesh ・カラムディ村で、現地の村人による開発のための委員会「Shondani-Shonsta」と協力して、＜教育＞と＜医療＞の分野で次のような支援活動を行っています。

【教育】分野では…

将来を担う子どもたちの
教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設(1987～89年)とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校に行けない子どもたちへの奨学金制度
- ③ 職業訓練(ミシン)で技術を身に付ける
- ④ 教科書図書館(教科書が買えない中学生のために、教科書の貸し出し)
- ⑤ 教育教材(特に理科など)学校設備の充実

【医療】分野では…

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設(1995年)とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備
(1998年～)
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修
(1995～97年)
- ⑤ 出産前の女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回検診と衛生指導

国内活動では…

- ① 会報誌『ミロン』の発行
- ② 定例会の開催(いろんな学習、イベントなどの参加型学習会)
- ③ 現地訪問の報告書作成と記録ビデオの制作
- ④ 現地訪問の報告(職場や地域などで)
- ⑤ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑥ 総会(毎年4月、予算・決算と活動方針などの決定など)

その他、
夏の現地訪問
冬のスタディツアーを
行っています。

Bangladesh と手をつなぐ会

名誉代表 大木松子 ・ 代表 ニノ坂保喜

〒814-0002 福岡市早良区西新5-4-20

電話:092-844-1369 ファックス:092-781-9658

<http://www1.doc-net.or.jp/~ninosaka/bangladesh-top.htm>

たのしい すてきな 総会でした。

4月22日、ももちパレスで総会を
しました。久しぶりの方「バングラデシュ
に小学校をつくる会」の頃一緒だった
方……みんな明るく前向き！

これからも みんなで考え、バングラ
の人たちと、楽しく手をつないで前進
しましょうね。

大木松子

4月22日(日)ももちパレスにて、『バングラデシュ独立30周年を祝う会』を行
いました。

留学生によるバングラの歴史講座のあとは、待ちに待ったバングラカレー。久し
ぶりの人も初めての人も、「おいしい!」。参加して下さいましたみなさん、どうもあ
りがとうございました。

NO.86 MAY 2001 もくじ	
P1. 大木名誉代表より／もくじ	P10. 手をつなぐ会「告知板」
P2. 2001年度 基本方針	P11. 会計報告
P3. 2001年度 組織体制	P12. 今後の行事予定／編集後記
P4~7. STUDY TOUR REPORT	
P8~9. カラムディ村 最新情報	
	最後のページまで、どうぞお見逃し なく!!



バングラデシュと手をつなぐ会 2001年度 総会報告

4月22日(日)ももちパレス3階の会議室で本年度の総会が開かれ、以下のことが承認されましたので報告します。

(1) 2001年度 基本方針

①組織の建て直しとNPO法人化

現在バングラデシュと手をつなぐ会は、大きな危機に直面しています。組織的には、数名のメンバーで運営、事務的仕事、対外的交渉、ミロンの製作を行い、ミロンの発送やバザーのときに若干の会員の協力がいただける状況です。組織と運営の建て直しが緊急の課題です。これは、運営委員会の運動方針の問題もありますが、同時に全国的にも不況を反映してNGO活動への支援の低下、人材の不足なども背景にあります。組織と運動の建て直しのためには、数年来言われているように、理念の明確化、何をやるのかを再確認する、といった基本的なことを踏まえると共に、実際に運営を担ってくれる人を発掘、育成すること、会の事業や行事に会員の参加を促すこと、など現実的な対応が必要になってきます。

NPO法人化は、昨年からの懸案でしたが、この組織の建て直しをNPO法人化を契機に実行したいと考えています。

②現地の問題を正しく把握し、共通の理念、方針を再検討する。また、活動の評価基準作りを行う。

この数年、現地でいろいろな問題が続いています。母子保健センターの医師の頻回の交代、それに伴う業績不振、またバングラデシュ全体の政治的不安定も加わって、村の中でのションダニ・ションスタの基盤の不安定、指導力の低下、など望ましくない問題が解決されないまま継続しています。

これは現地の問題と同時に、私たちの活動計画の立て方、評価方法、などにも問題があることとなります。昨年に引き続き、現地の状況をより深く知ること、現地と一緒に方向性を再検討すること、それに私たち自身の活動の評価をやり直すことが求められています。

③具体的なその他の活動方針

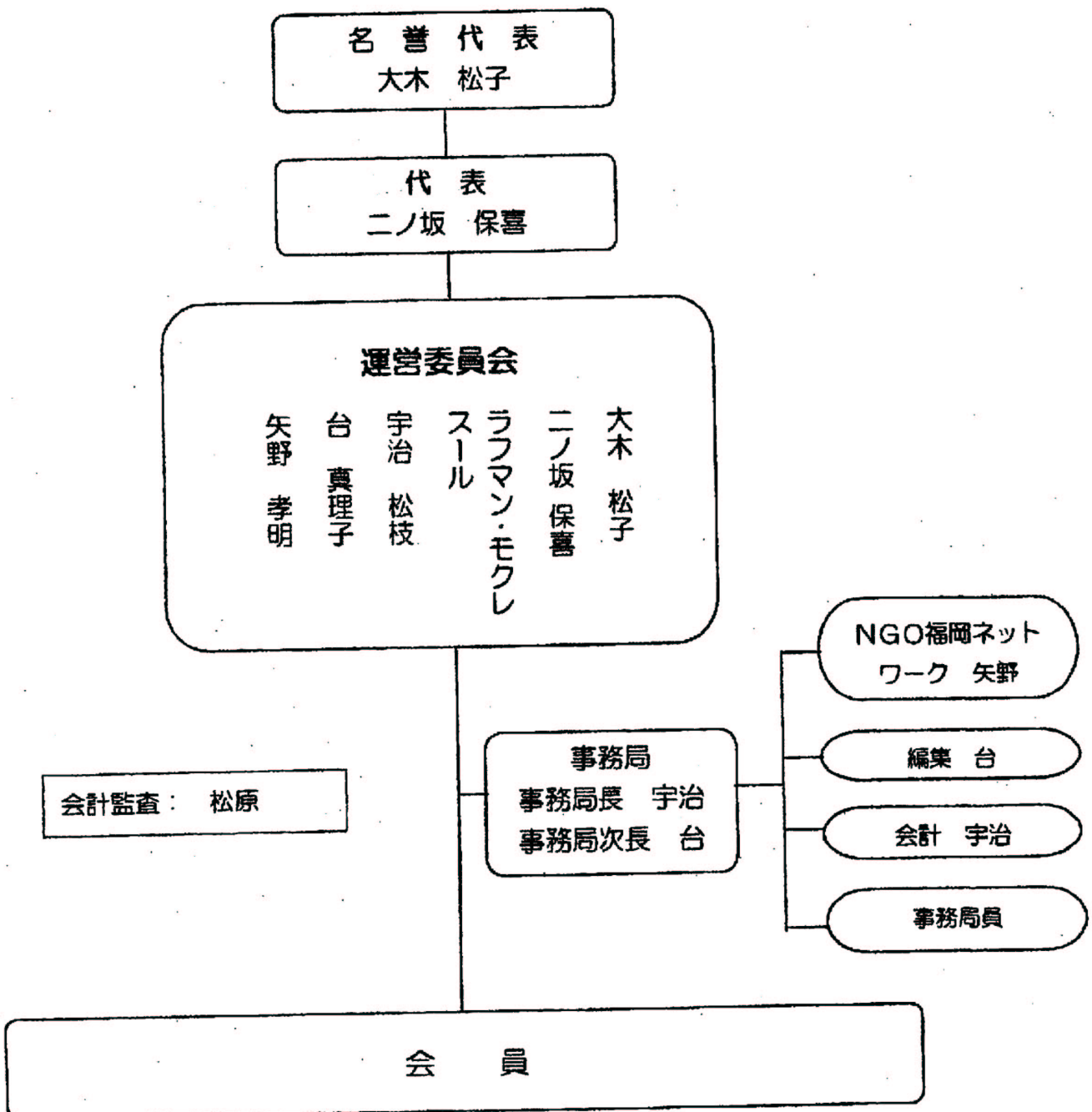
- i) NGO福岡ネットワーク、および参加団体その他NGOとの協力、学びあい。
- ii) 長崎の「バングラデシュの母子保健センターを支援する会」との協力体制を維持する。
- iii) 会員募集強化とともに、現会員の意識を高め、行事や事業への参加を促す。

(2) 2001年度 組織体制

代表としての事務的な仕事が、年々増えてきました。大木さんはご高齢でもあるので名誉代表になっていただき、代表を二ノ坂保喜さんに引き継いでいただくということが総会で承認されました。

Bangladesh と手をつなぐ会 2001年度 組織図

2001年4月22日





井口 翔子
INOKUCHI SYOKO

最初バングラデシュを訪れた時、知らない世界に連れてこられたようでハラハラ、ドキドキしていました。毎分、毎時間が驚きの連続で、10日間ずっと興奮のしっぱなしでした。日本に帰ってきても家族にこの体験を語る私は少し興奮気味でした。

この体験を通して私はバングラデシュのことをもっと知りたい、学びたいと強く思いました。貴重な体験をさせてくれた家族、一緒に参加したメンバー、そしてバングラデシュと手をつなぐ会に深く感謝します。

飛永 佳代
TOBINAGA KAYO

魅惑の国

“バングラデシュ”

バングラデシュはとりわ

け夕暮れ時が良い。日本よりも少し小さく見える太陽がオレンジ色に光りながら遠い地平線に沈んでいく。ゆっくりゆっくと一日の終わりを感ずる瞬間である。村で私たちはこの時間を好んで表のお茶屋さんで過ごした。お茶屋さんで日暮れを感じ今日のことなどを話し



て帰る時にはもう太陽はすっかり沈み今度は小さな月と満点の星を見ることが出来る。満天の星の下でバングラデシュについて、日本について、将来について…半分眠りながら語り合ったことを私は一生忘れないだろう。

「貧困と豊かさ、発展と停滞、厳しい戒律といい加減さ、喧騒と静けさ…対立する様々なものが同時に存在し得る国」これが私のバングラデシュに対するイメージである。

バングラデシュで私は初めて本当の貧困に出会った気がした。特にダッカでは「混沌」というイメージさえも湧いた。ダッカでのおびただしい数の物乞いをする子どもたちとの出会いは私にとって最も衝撃的で涙さえでない戸惑いを覚えた出来事だった。しかし同時に本当の豊かさにも出会ったとも思う。実り豊かな肥沃な大地とゆっくりとした「生きる」生活。我が身を振り返らずにはいられなかった。私は日本人であり日本人としてしか彼らに関われない。今回の旅で私が得たかったものそれは「バングラデシュ人の世界観」である。彼らが自分の国をどう捉え、そしてどうしてい



たいと考えているのか、日本に対してまた他国からの援助に対してどう思っているのか、それを日本人である私が少しでも感じられるように、なるべく多くの自分と同じ立場である大学生と話す機会を持つとしたつもりである。大学生と触れ合ってみて得たものは多いように思う。しかしやはり2・3日の付き合いでは到底、宗教などが深く入り込んだバングラデシュ人の世界観まではつかむことは出来なかった。私は援助にしても何にしても何かこちらから誰かに対して働きかける時には、働きかける相手の状態や気持ち、そしてこちらに対する意識が大切だと思っている。この旅を通して「バングラデシュ人の世界観を理解していくこと」これがバングラデシュの人々と関わる上で非常に重要でそして難しいテーマのように感じた。



させて頂き、初めてバングラデシュという土地を訪れ、まず感じたのは自分の無力さでした。私は何を求めてこのツアーに参加したのだろうか？様々なものを見ることで一体何を求めているのか分からずに、1人でボーっとすることも多々ありました。到着初日、カーレース状態の交通事情にア然とし、2日目、バスの中のあの異様な臭いが私を苦しめ、窒息しそうでした。早速ホームシック。どうなることかと思いましたが、『慣れ』とは怖いもので、手で食べること、どっぼん便所の真横でシャワーを浴びること、ごきぶりやハエと共に生活している気分になること、バスやトラックに巻き込まれ

ながら市民の足として懸命に走るリキシャ、あらゆることが『当たり前なこと』のように思えてきました。（便利なものばかりに頼っている私たちって弱いなあ）と、また（人間ってこんなに強いんやな）と感じました。カラムディ村の人々はとても親切で、私たちをいつも見守って下さいました。色々な家庭を見る中で感じたことは、『戸惑いがない』ということ。何もなくて貧しいのではなく、必要なものが1つあり、日本のように選ぶ楽しみはないけれど、生きていくにはそれだけで十分で、その1つを大切に出来るという心の豊かさを知ることが出来ました。身震いしてしまうほど心のこもったバングラ独自の歌を披露してくれた小学生。何度もバングラはどうだ？と聞く大学生。本当に自分の国が誇らしく、大好きなんだなあと思いました。出発前、物乞いの人に何も渡さないように注意されていました。『自分の

塩塚 結実
SHIOZUKA YUMI
スタディーツアーに参加

身を守るため』と言われ、臆病の者の私は忠実にそれを守りました。しかし、現地に行ってもう一つ気付いたことは私たちが日本と同じ感覚でポンと何かを与える(?) ことによって、それまで上手くいっていた人間関係に傷が入ってしまうかも…つまり、珍しい何かを目にすることによって争いが生じ、そこにあった平和を崩してしまうかもしれないということです。私は、せめて人並みに…という思いで、親に守られて育てられてきました。しかし、ダッカで見られたのは、自分の体を犠牲にしてただひたすらに今を生き延びようとする子どもたちの姿でした。自分に置き換えてみるとその先は真っ暗で、頼る人もなく、たった1人で生と向き合うその姿には、本当に心打たれました。が、しかし私はどうしても納得できないままです。この子どもたちの人間らしく生きる権利はどこへいったのだろうか…この子どもたちの『いのち』は生きる

ためだけのものなのだろうか… 考えれば考えるほど何も出来ないでいる自分との間にジレンマが生じ、もどかしく、悔しくもありました。しかし、その時に初めて『バン格拉デシュと手をつなぐ会』が現地の人々にとってどれだけ大きなものなのか、気付くことが出来たような気がしました。あれだけ現地の人に快く迎え入れて頂いたのも、これまでの活動と以前訪問された方々の誠意なる支援のおかげなのでしょう。これからもバングラの人々のことを思いながら、与えられた生活を精一杯生きていきたいです。もし、また、バン格拉デシュを訪れる機会が与えられるのなら、是非勇気ある2歩目を踏み出してみたいと思います。最後になってしまいましたが、この10日間という長いようで短かった期間を共に過ごした佳代ちゃん、翔子ちゃん、晋平くん、そして私たちが色々な経験が出来るよう懸命にサポートして下さった

矢野さん、忙しいながらもいつも私たちのことを気にかけて下さったラブマンさん、ステイ先で私たちを歓迎して下さった方々、参加するキッカケをつくってくれた両親、そして、このツアーを支えて下さっている手をつなぐ会のみなさん、全ての人に心から感謝したいと思います。本当にこの機会を与えて頂くことが出来てよかったです!!



井口 晋平
INOKUCHI SHINPEI

スタディーツアーを
終えて

まず、カラムディ村へ行く人多くの人に話しかけられて少し戸惑いました。でも、すぐに数人の学生と仲良くなり、カラムディ村を案内してもらいました。そして自宅にも招

待され、とても充実した毎日を過ごせました。そして今、彼らの文化、習慣、考えをもっと理解したいと思っています。今後もバングラデシュと何らかのつながりを持ち続け、将来、もう一度と言わず何度でも、行ける限りバングラデシュに行って多くの人とふれあいたいです。

矢野 孝明

YANO TAKAAKI

カラムディ村に
行って来ました

夏に続いて二度目のバングラデシュ訪問になりました。乾季のバングラデシュは池の水は干上がり、埃っぽく、気温はゆうに30度を超える毎日でした。カラムディ村の人々はみんな僕のことを覚えていてくれて、「よく帰って

きたな、元気だったか？」と大歓迎してくれました。現在、バングラデシュは選挙前で政治的に不安定な状況にあります。その影響は都市部だけでなく農村部にもあるようです。カラムディ村滞在中もそのピリピリしたものが僕たちにも伝わってきました。僕たち日本人にとってそうした状況への理解は難しいものです。政治がなぜ人々の生活に深く関わっているのか、すぐにはピンときません。それは政治に限らず彼らの伝統性であったり、社会習慣についても同様のことが言えます。彼らのあらゆる生活環境を尊重した上で私たちの日本からの活動を考えていかなければならないということをも再認識することが出来

ました。それが今回の訪問で改めて感じた強い印象です。



カラムディ村最新情報



政治状況

国会選挙が間近になって与党と野党の選挙戦が激しくなってきました。それは政策の問題と言うよりいかに与党を倒すか、また野党を押さえるかが政治運動の焦点となっています。戦略として、ほぼ毎日のように、野党によるストライキ、また与党による反ストライキが続いています。交通機関がストップし、市民生活が麻痺状態になっています。村に行っても国政と同じ状況が見られました。村人は与党と野党に分裂され、中立の立場で物事を考える人が少なくなっているような気がしました。そしてショングニに対してどの党派たちが支配権を持つかについて水面下の争いがあるようです。私（ラフマン）はこのような状況の中で、ショングニが中立の立場を維持し、明確な計画をもって進むよう助言してきました。




教育

以前と比べて就学率はかなり上昇しました（95%以上）。小学校から中学校への進学率も伸びました（113人中110人）。しかし中途退学や早期結婚は変わっていません。921人の小学生の内163人、また349名の中学生の内46名は進級できませんでした。とても残念なことには、35名の生徒が結婚させられ、学校生活を後にしました。この社会的な問題をいかに解決するかが大きな課題です。

また質の高い教育を目指すならば生徒の出席率を高めなければなりません。昨年と比べて少しよくなりましたが、でも約4分の1の生徒は毎日学校を休んでいるのです。（中学生でショングニから奨学金をもらっている生徒の出席率を見ると、どの生徒も平均80%以上出席しています。）

教科書図書館を利用する生徒は、今年度443名の中学生の内、90名です（新教科書セット39・古いセット51）。また本を読む習慣を高めるために一般の本を貸し出す制度を作ったところ、昨年、多い月では3分の1の生徒が本を借りていることが分かりました。これは喜ばしいことだと思います。



医療

医師の退職

昨年ノルジャマン医師が退職後、長期勤務する医師が不足しています。医師は

田舎の病院に勤務したがる、したとしても長く勤めない、また給料も非常に高く要求するなどさまざまな問題があります。医師や看護婦が次々変わると、病院の医療活動に対して村人は信頼をなくし、結果として患者数が減っていきます。また赴任するのは大学卒業したばかりの医師が多く、診察能力についてもたびたび疑問があります。昨年9月に赴任した若い医師も、高い給料や海外での研修の機会を要求していましたが、シヨンダニが応えられなかったため今年3月末をもって退職しました。

機械の故障

病院にもっとも欠かせない機械にエコーと心電図があります。この二つの機械はMCH開設のとき日本から持っていった中古です。しかしエコーは昨年5月に、また心電図は今年1月に故障し現在は使えない状況です。修理するにはかなりのお金が必要のようですが、修理できるような人がいるのか疑問です。これらの機械については郵政省ボランティア貯金の配分金申請を行っています。

トレーニングナースと裸足の医者

昨年半ば頃から村人の健康に対する意識を高めるために働く人材を育成するという目的で、村出身の5人の女の子を看護実習生（トレーニングナース）として採用し、研修を行っています。また同じ時期から裸足の医師たちの研修も行われています。バングラデシュに行く前に私はこれらの研修生がどのような研修を行っているかが気になっていました。昨年の現地訪問の時に研修内容を見たところ、内容がかなり高度で、また体系的ではありませんでした。重要なことは、研修が村人のまたシヨンダニのために役立つかということです。私はすべての研修を関連づけて欲しいと言いました。たとえば、裸足の医者と看護実習生の研修は全く無関係ではなく、いかに総合的に考え、まとめていくかがシヨンダニの役割だと言いました。またこれらの研修は医療だけに限定するのではなく、教育活動にも役立たなければなりません。彼らが村を巡回するとき、子どもたちの早期結婚や長期欠席などの問題について話しかけることも出来るのです。

最後に、医療活動について村人の信頼を取り戻すために、シヨンダニのスタッフ・運営委員が一体となって考え行動して欲しいと強く要請してきました。

チャリティコンサート in ながさき 2001

長崎の、「バングラデシュの母子保健センターを支援する会」が3回目のチャリティコンサートを開催します。今年のコンサートは、はじめから協力いただいているピアノの宮坂純子さん(フォルテピアノ)、それに今年はバイオリンの高田あずみさんの共演となります。

日時 2001年6月9日(土) 午後6時開演

会場 旧香港上海銀行長崎支店記念館(長崎市松が枝町4-27)

TEL 095-827-8746

入場料 2000円

主催 バングラデシュの母子保健センターを支援する会

教室と NGO 架け橋交流会

NGO 福岡ネットワークでは、毎年教室とNGOとを結ぶ交流会を開催しています。今年は、学校での国際交流や国際協力に関するさまざまな試みを報告しながら、生徒たちが参加しながら学べる開発教育のすすめ方をいっしょに楽しく学びたいと思います。学校の先生、生徒たち、それに関心をお持ちの父兄の皆さん、どなたもご自由に参加できます。

日時 6月10日(日) 午後1時30分~4時半

場所 クローバーラザ501研修室(JR春日駅前)

主催 NGO 福岡ネットワーク

お問合せ・参加申込 NGO 福岡ネットワーク

福岡NPO共同事務所「びおとーぶ」(福岡市南区平和1-6-1)

TEL&FAX 092-526-9627

参加費 無料

にのさかクリニック5周年記念在宅ホスピス写真展開催

にのさかクリニックは、開院以来5周年を迎えました。これを記念して在宅ホスピスの写真展を開催します。不治の病で、最後のときを在宅で過ごすことを決意した患者さんと、それを支える家族や医療関係者たちの物語です。入場は無料です。どうぞ皆さんで、お越しください。

日時 5月14日(月)~19日(土)

午前8時~午後9時(土曜日は午後3時まで)

会場 福岡中央銀行本店アトリウム・ふれあいギャラリー

入場無料



会計報告



新会員紹介(敬称略)

- ・西木戸茂子 ・矢野孝明 ・井口翔子 ・井口晋平

募金協力者紹介(敬称略)

- ・富田桂子 ・田代満智子 ・梅田あゆみ ・国際YOP 茨木福岡東 ・野口幸子
- ・曾根和子 ・瀬良照子 ・村里やよい ・日本YMCA教団：日向新生教会
- ・井上稲子 ・吉岡加津子 ・静岡一番町教会：こどもの教会 ・合澤英夫
- ・松田純子 ・幸田あゆみ ・貫橋宣夫 ・秋山寿枝子 ・池田愛美
- ・日本YMCA教婦人緑風会：蒲田支部 ・江崎政子 ・南里昌子 ・早良更正園
- ・にのさかりニッ窓口募金 ・池田久良治 ・山崎清子 ・福本トミ子
- ・岡(お名前不明) ・大浦工ミ子 ・八木良子 ・津田光昭

旅費カンパ協力者(敬称略)

- ・中川章子 ・井口弘幸 ・井口永子 ・吉川徹 ・山下久代 ・松成壽子
- ・江上暁子 ・しののめ作業所：藤島芙美子 ・林三千代

教育募金協力者(敬称略)

- ・大賀久美子 ・カリッ二日市教会：山元眞 ・佐竹準助 (以上、4月30日現在)

— ご協力有難うございました。 —

現地の会計について

昨年前の5月号ミロンにて、現地会計チェックと帳簿作成方法についての指導を行ってきたことをお伝え致しました。以来現地からは、毎月会計報告書が送られて来るようになり、その都度細やかな箇所まで確認をして参りました。会計チェックをすることによって、現地の活動面での様子も分り易くなってきました。また、3月のスディア-では、ラフマンさんに会計チェックの代行を依頼しました。その報告の結果、2000年度の現地会計内容に問題がなかったことを皆様にご報告いたします。



総会の報告

2000年度の決算については、松原税理士の監査をいただき、4月22日の総会で承認されました。また、2001年度の活動計画に併せた予算についても総会で承認を頂きました。以上、ご報告いたします。

私事で申し訳ありませんが、99年度から2年間会計の担当をして参りました岩切は、この度遠方への転居が決まり、退任することになりました。後任は事務局長の宇治さんが兼務してくれることになりました。

年々活発な活動を積み重ねている私たちの会ですが、多忙な事務局長が会計を併任しなければならない状況が、いかに人材不足であるかを物語っております。

退任する身で申し訳ないのですが、どうか会員の皆さまの積極的なお手伝いをお願い申し上げます。

(岩切篤子)

今後の行事予定

(変更することがあります。ご確認ください。)

月 日	時 間	内 容	場 所
5月19日(土)	14時～ 17時	定例会 「私達の暮らしと国際協力」 講師: 多方 一成 参加費: 500円	びおとーど 南区平和1-6-1
24日(木)	19時～	運営委員会	西新事務所
27日(日)	13時～ 15時	チャリティーバザー	にのさかクリニック 前駐車場
6月7日(木)	19時～	事務局会議	にのさかクリニック
21日(木)	19時～	運営委員会	西新事務所
7月5日(木)	19時～	事務局会議	にのさかクリニック
19日(木)	19時～	運営委員会	西新事務所
21日(土)～ 8月5日(日)		2001年 現地訪問	ハンガラデシヨ カラムデイ村
9日(木)	19時～	事務局会議	にのさかクリニック
16日(木)	19時～	運営委員会	西新事務所
20日(月)	19時～	ミロン印刷作業	にのさかクリニック
23日(木)	13時～	ミロン発送作業	西新事務所

編集後記

どうもこんにちは。お花見やりました? GOLDEN WEEK も終わっちゃって、疲れてませんか、大丈夫ですか、元気でしょうか? さてさて総会も無事に終わり、また新たな1年の始まりですね。今年度もどうぞよろしくお願い致します。イベントもいろいろありますので、ぜひご参加ください。それから、「ミロン」に関するご意見もお待ちしております。見事にお願いばかりで…ではまた。(D)

事務局スタッフ大募集中です。

興味のある方は、事務所またはにのさかクリニックまでご連絡を。

Bangladesh と手をつなぐ会

チャリティーバザー

5月27日(日) 午後1時~3時
にのさかクリニック前駐車場

恒例! 春の大バザール!

Bangladesh の民芸品も販売

Bangladesh 紅茶も販売中!

(試飲できます)

大募集

*眠っている不要品をぜひご提供ください

*当日、販売を手伝ってくださる方を

募っています。(正午から午後3時)

問い合わせ先

にのさかクリニック 電話092(872)1136

事務所

電話092(844)1369

バン格拉デシュと手をつなぐ会定例会

「私達の暮らしと国際協力」

日時:5月19日(土) 午後2時から5時

場所:びおとーび(福岡NPO共同事務所内)

福岡市南区平和1-6-1

TEL092(526)9620

講師:多方一成(宮崎産業経営大学助教授)

参加費:500円

毎日の何気ない生活が世界の人々と繋がっている。
新たな生活観を提案する定例会です。ぜひ、ご参加を!

2001年現地訪問団募集

訪問先:バン格拉デシュ・カラムティ村

日程:7月21日~8月5日(予定)

予算:17万円(予定)



締め切り:5月末日 10名まで *おいそぎください

問い合わせ先:にのさかクリニック

TEL 092(872)1136 FAX 092(872)1137

mail matsusyu@aol.com